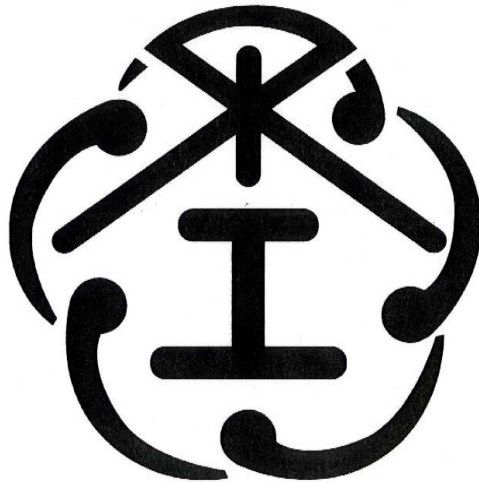


令和7年度

学 校 教 育 計 画



大阪府立泉尾工業高等学校

目 次

ページ

I 学校教育活動の方針

(1)	学習指導の方針	2
	各教科の方針	2
(2)	特別活動の方針	10
(3)	道徳教育及び生徒指導の方針	12
(4)	進路指導の方針	14
(5)	人権尊重の教育の方針	16
(6)	健康管理と指導の方針	17
(7)	学校組織の運営方針	20
(8)	教員の研修方針・研修計画	20

II 校務分掌

(1)	校務分掌表、各種委員会	21
(2)	学年主任、ホームルーム担任一覧表	23
(3)	生徒会活動・クラブ部員数・部活動顧問一覧表	24

第Ⅰ 学校教育活動の方針

(Ⅰ) 学習指導の方針

- ・生徒一人一人にとって「魅力的な授業」、「分かる授業」を実践し、生徒の学習に対する意欲を高めるとともに、主体的に学習に取り組む生徒を育成する。
- ・学校設定教科「基礎学習」を通じて、基礎学力の定着を確実に行之、技術・技能の習得をめざした専門教育の充実につなげる。
- ・1人1台端末の利用などICT機器を効果的に活用した授業実践に向け、研究授業で実践事例を教員間で共有するなど学校としての取組を進める。
- ・専門学科での学習を資格取得、検定合格につなげることで、さらなる学習意欲を喚起する。

◎ 各教科の方針

【 国 語 科 】

① 本年度の課題

- ア) 資格取得者数・検定合格者数を昨年度より増加させる。
- イ) 個々の生徒の状況を全教職員で共有し、教育内容や教授方法の改善に繋げる。
- ウ) 社会人基礎力をつけさせる。

② 本年度の達成目標

- ア) 目的や場にふさわしい語句を選んで、適切に思いや考えを表現することができる。
- イ) 目的や場に応じて的確に文章の内容や構成、登場人物の心情を理解することができる。
- ウ) 人間関係において、互いを尊重し、相互理解を深め、正しく意思を伝えあうことができる。
- エ) 言語感覚を磨き、論理的な思考力、豊かな想像力を場面に応じて活用することができる。
- オ) 伝統的な言語文化に対する関心を持ち、国語を尊重する態度を育てている。

③ 目標到達のための方策

- ア) 各科・各教科で資格取得・検定合格への対策を立て、取得・合格へ向けての生徒の意識を高め、資格取得を希望する生徒に対して受検対策を行う。また、普通教科と各工業科が協力し生徒の資格取得・検定合格のために必要な基礎学力の育成・定着に努める
- イ) すべての教科・学科において授業の創意工夫や教材の精選を行い、分かる授業の実践で生徒の基礎学力定着、意識の向上に努める。特に、国語科については、本校の特徴的な取り組みである学校設定教科(科目)「基礎学習」の授業内容や教授方法等の研究・実践を重ねる。また授業参観及び面談等を利用し取組を確認する
- ウ) 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ・生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- ・生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- ・言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。
- ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

【 地歴・公民科 】

① 本年度の課題

現在世界情勢の変化が激しい世の中で社会と人間に関する基本的な問題について理解と認識を深め、社会に対する判断力と人間の生き方について自ら考える力を養い、人間性豊かな社会人の育成に努める。

② 本年度の達成目標

地歴科では日本と世界に対する知識を深めることを、公民科では日本と世界の国々の政治や経済の仕組みを理解させることを目的としている。そのために基本的事項の理解を進め、練習のプリントや小テストにより、基礎学力の定着を図る。

③ 目標到達のための方策

- ア) 学習内容を精選し、基本的事項を繰り返し学習させることで、地歴公民に関する基礎的知識の定着を進める。
- イ) 時事問題に関する資料を収集し授業で活用する。
- ウ) ICT機器を利用した授業展開など、生徒の関心を高める工夫を行う。
- エ) 検定（歴史能力検定・地図地理検定・世界遺産検定・ニュース時事能力検定など）の活動については、現在検討中である

【 数 学 科 】

① 本年度の課題

- ア) 観点別評価を活用した数学的活動を通じて、数学的な見方・考え方を養い論理的に考える能力を育成する。

- イ) 1年生の数学Ⅰでは1クラス2展開の習熟度別少人数授業を行い、基礎学力の充実を図る。
- ウ) 生徒が主体的に学習できるような環境づくりに努め、生徒の論理的思考力を高める。

② 本年度の達成目標

基礎的な学力を定着し、主体的に学習する力を身につけ、数学的活動を通して物事に対する論理的思考力を高めることで「確かな学力」を育成する。

③ 目標到達のための方策

- ア) 隔週で教科会を行い、科目・担当者間で生徒の情報を共有し、生徒の理解度に合わせた授業内容や題材の吟味・進度の調整を行う。
- イ) 数学Ⅰで習熟度別授業を実施することで到達度の差を補い、基本事項の正確な理解と把握する力を身につける。
- ウ) 机間巡視時に、理解の不十分な生徒には個別指導を行い、理解の早い生徒には発展的な課題を与える。
- エ) 理解不十分な生徒への補習を考査前に実施し、きめ細やかな指導を行う。
- オ) 各教員が、他教科や専門系の授業を参考にしつつ授業改善を進める。
- カ) 提出物等により常に生徒の理解度の把握に努め、授業に反映する。

【 理 科 】

① 本年度の課題

自然科学に対する関心や探求心を高め、科学的に探究する能力と態度を育むとともに、自然科学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

② 本年度の達成目標

授業の創意工夫や教材の精選を行い、基礎学力の育成・定着に努める。自然科学と日常生活や社会との関連を図りながら、自然科学に対する興味・関心を促し、自然事物や事象に対して、主体的に探究する態度を育成する。

③ 目標到達のための方策

- ア) ICTなどを活用し、生徒が理解しやすい授業を行う。また、本校生徒に適した独自教材を作成し、基礎的な事項を繰り返し学習することで基礎学力の定着を図る。
- イ) 自然科学について、生徒が考えやすいような、日常生活に結びついた話題を取り上げ、自然科学に対する興味・関心を促す。その際、生徒に考える機会を設けるとともに、発表等、表現する機会を設ける。

【 保 健 体 育 科 】

① 本年度の課題

ICT 機器を活用しながらフィードバックをおこない、自らの動きを理解させ、運動能力向上につなげていきたい。また、集団行動に力をいれたい。

② 本年度の達成目標

授業力向上、生徒の学習意欲喚起のための取組み

ア) 創意工夫の喚起と個々人に応じたフィードバックの徹底

イ) 個人種目においては、二人組を活用し、相互にアドバイスしあったり、ビデオを撮りあうなどして、能力の向上に意欲的に取り組めるようにする。また集団種目においては、班ごとの組織づくりの体験に留まらないように、教員からも生徒たち自らが課題を解決できるよう促していく。

ウ) 生徒がリーダーシップを取れるよう指導助言しながら、自主的に計画させ実践させる。

エ) 保健では自ら学び発表する面白さを体験させたりするなど、授業形態を工夫し、学びを深める姿勢を養う。

③ 目標到達のための方策

ア) 生徒の基礎体力の向上をめざして、準備運動や補強運動の充実を図る

イ) バディシステムを利用し、教科内の教員で授業のない時は自由にお互いの授業見学し、その都度、後の空き時間に意見交換を行う。

ウ) 指導に関する資料（授業ノートやスキルテストの内容・評価基準）をICTのフォルダで共有する。

エ) 毎時間授業レポートを作成させ、フィードバックをおこなう。

オ) 体育授業における体育委員への指導助言を通して、リーダーシップを育成する。

【 英 語 科 】

① 本年度の課題

「聞くこと」「話すこと（やり取り、発表）」「読むこと」「書くこと」の、英語4技能の力をつけることを目標とし、4技能の総合的な指導を通して、4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成することに留意する。

② 本年度の達成目標

ア) 日常的なあいさつ、簡単な指示、必要なことからについて、内容を聞き取ることができ、その内容を理解することができるようにする。

イ) 日常生活に必要な基本的な情報を他者に伝えることができるようにする。

ウ) 基本的な語句や表現で書かれた短い物語を読み、その内容を理解することができるようにする。

エ) 自分の考えや日常的な情報について、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。

③ 目標到達のための方策

ア) 4技能の力をつけるために必要な基礎学力を充実させるため、英単語や重要事項などの学習を反復して行う。

イ) 外国人指導助手とのチームティーチングなどの機会を利用して、生きた英語に触れる機会を増やし、英語に対する興味関心を持たせるようにする。

【 家 庭 科 】

① 本年度の課題

人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

② 本年度の達成目標

ア) 生活に必要な知識と技能を身に付け、実際に活用する能力と態度を身に付ける。

イ) 身に付けた知識と技術を活用し、実際の生活において課題を発見し解決できる能力を高める。

ウ) 共に支え合う社会の一員として主体的に行動するための力を身につける。

③ 目標到達のための方策

ア) 分野ごとに基礎、基本を整理するためワークシートに記入する。

・ 自立した生活を営むために必要な基礎的・基本的な知識を身に付ける。

・ 食育の推進を図る視点から、栄養、食品、調理及び食品衛生について科学的に理解する。

・ 男女共同参画社会の推進を踏まえて、家族・家庭の意義や社会との関わりについて理解する。

イ) 実習やグループワークで知識、技能を身に付け見識を深める。

・ 生涯を通して健康で安全な生活を営むための知識及び技能を身につける。

・ 自分自身と向き合い自分の意思や考えを言語化し、人の意見に耳を傾け視野を広げる。

・ 生活を総合的に認識し、適切に判断する意思決定能力を高める。

ウ) 実践的・体験的な活動を通して自分の課題を見出し問題解決に向けた力を身につける。

・ 消費者としての適切な意思決定に基づいて責任をもって行動できる力を身につける。

・ 持続可能な社会の構築を目指したライフスタイルを確立するために必要な技能を身につける。

・ 生活を科学的に探究する方法や生活の充実向上をめざした問題解決能力を高める。

【 ファッション工学科 】

① 本年度の課題

- ア) 生徒が一層、積極的に取り組むために「実習」内容の充実、時代に応じた教材研究、学年における縦断的、パートにおける横断的な「実習」計画を立てることが必要である。
- イ) 検定においては、進学・就職の観点から各種検定合格をめざし、合格という成果から自己肯定感を向上させたい。結果として他の科目における学習意欲の向上へとつなげ、将来の職業選択の幅を広げさせたい。

② 本年度の達成目標

- ア) アパレル産業で活躍しているテキスタイルプリンタ・昇華転写プリンタ・ホールガーメント等最新機器を積極的に授業・実習で取り入れ、仕組みや使い方に関する技能を身につける。
- イ) アパレル産業で活躍する人材に必要とされる、服飾関係の技術（縫製・染色・織物・ニット等）や企画力（デザイン発想・考案等）を身につける。
- ウ) 最終学年での実習・課題研究（ファッションショー）に向けて、縫製・染色・織物・ニット・CG等の授業・実習を関連させる。
- エ) PC 関係（文書デザイン検定・情報処理検定等）検定や服飾関係（色彩検定やファッション販売等）の検定取得を進路実現と結び付け、積極的にチャレンジする姿勢を育成する。

③ 目標到達のための方策

ア) 基礎学力・技能の定着

- ・ 身近なアパレル製品を取り上げ、アパレル産業への興味・関心を高めるとともに、服飾関係の技術・企画力を身につけさせる。
- ・ 各教科で教材について情報交換し、習熟度を共有することできめ細かな指導を継続的かつ効果的に行う。
- ・ 必要に応じて I C T 機器や実習機器を活用し、最新の技術や知識を身につけさせる。

イ) 職業能力の育成

- ・ 高専連携授業や企業と連携した授業・実習を行うことで、幅広い視野を身につけさせる。
- ・ 学習状況を分析し、きめ細かい指導を継続的に行い、それぞれの生徒の習熟度に応じた個別指導を行う。
- ・ 資格取得に関する補講や講習を充実させ、個人指導を徹底することにより学習意欲を喚起し、自発的学習へと導くよう努める。

【 セラミック科 】

① 本年度の課題

生徒自らが考えて手を動かして工作する経験が少なくなり、力の加減をうまく調節できず実習・実験で苦勞する生徒が増えている。また、言われたまま、状況判断をせずに操作して勘所を外し、課題を完成させられない者もいる。多様化・高度化する求人に応えられる人材を工業高校で育成するに当たり、これらを改善することを課題としたい。

② 本年度の達成目標

- ア) セラミックス教材の利点である取扱の容易さを生かし、原料調整から完成検査に至る全ての製造工程を体験させる。そして工程全体を多角的、俯瞰的に見る学習を通して、もの作りの全体像をつかませる。
- イ) 体験でつかんだ工程の勘所と、製造工程に関わる科学的な原理とをつなぎ合わせることで、製造工程を科学的に理解しようとする態度と、理解に基づいて新たな工夫を試みる態度を涵養する。

③ 目標到達のための方策

- ア) 課題の中に、陶磁器・ガラス教材の特徴である芸術的要素および、日常生活に関連する要素を加え、実習・学習の動機付けとする。
- イ) 実習内容と科学的原理とを関連づけられるよう、授業を展開する。
- ウ) 大課題の全体像と、内部の小課題の位置づけを意識させ、課題解決の筋道を考える訓練を行う。
- エ) 比例の原理を使って、数字で見通しをつける訓練を行う。

【 工業化学科 】

① 本年度の課題

- ア) 化学物質の合成・分析、バイオテクノロジー、機械装置の運転等工業化学の基礎的な知識と実践できる技術身につけ、職業人として必要な知識・技術・心構えを学習する。
- イ) 環境問題やリサイクルなど環境保全に対する考え方、知識、技能を学習し SDGs に対する考え方を理解する。

② 本年度の達成目標

- ア) 化学反応による『ものづくり』の原理を理解し、実践できる能力を身につける。
- イ) 化学の基礎知識を身につけ、それをどのように実践していくかを考えるとともに結果を考察することでより高度な思考と問題解決能力を身につける。
- ウ) 化学だけでなくバイオテクノロジーや機器分析等、幅広い知識を身につけると共にリサイクルなどの環境に対する知識と実践する能力を身につける。

③ 目標到達のための方策

- ア) 基礎学力・技術の定着
 - ・ 各科目で計算能力の向上、数値のもつ意味を考えながら基礎的な知識を身につけ、実習により技術力を高めていくために科目横断的な考え方を身につけて実践的な能力を養う。
 - ・ 基礎的な知識を定着させるため結果に至るプロセスを重視し、繰り返し行うことで知識を身につけさせ、成功体験や達成感を重ねることで自ら学んでいく力を養う。
 - ・ ICT 機器を活用することで実践能力や知識の定着力を高め、更なる応用力が身につくような思考力を高めていく。

イ) 自立・自己実現の支援

- ・資格取得指導を充実させ資格取得に対する意識を定着させ、自信をつけさせることで自己肯定感を高め、更に様々な資格に対する意欲を高めていく。
- ・工場見学等を通じて仕事に対する姿勢や心構えを意識させ、自己の進路についてじっくりと考える機会を持たせる。また、授業等でも1, 2年の早い段階から自己の進路について意識させる。

【 機 械 科 】

① 本年度の課題

- ア) 機械に関する技術について基礎から学び、旋盤、フライス盤等の工作機械による加工技術および溶接、鋳造等について基本的な知識や技能を習得する。
- イ) 自ら課題を発見し解決していく探究的な学習をとおして「ものづくりに取り組む姿勢」を養う。

② 本年度の達成目標

- ア) 各科目において授業の創意工夫や教材の精選を行い、ICT 機器の活用で分かる授業の実践で生徒の基礎学力の定着、学習意欲の向上に努める。
- イ) 実技体験を通して学んだ知識・技能を生かし、資格取得・各種検定の合格をめざす。
- ウ) 機械に関する幅広い知識を持ち、実習や資格取得について、主体的に取り組む態度を身に付け将来社会に出て様々な分野で活躍し得る素養のある技術者の養成を行う。

③ 目標到達のための方策

ア) 基礎学力および基礎技能の定着

- ・基礎的な科目となる機械設計と機械製図、機械工作、工業情報数理ならびに機械実習に重点を置く。特に実習と製図では、教室で学んだ各種機械の構造や原理、図面の描き方等を実際に操作・製作を繰り返すことにより、技能を習得させる。

イ) 自立・自己実現の支援

- ・資格取得についての年間計画を最適化し、生徒の興味関心が高まるよう指導する。また座学と実習との連携を図りながら「ものづくり」への興味関心をさらに深め、実践的な授業内容の精査・工夫を行い、各種検定の合格率を高める。
- ・各検定前には事前指導や補習等をおこない、習熟度に応じて個別指導も行う。
- ・工場見学や卒業生を囲む会、応募前職場見学等を通じて、職業観の育成を行う

【 電 気 科 】

① 本年度の課題

- ア) 電気技術に関する見方や考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行い、ものづくりを通じて社会の持続的な発展を担う職業人としての必要な資質・能力を育成する。
- イ) 電気技術に関する広い視野を持つことをめざして自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

② 本年度の達成目標

- ア) 電気技術について工業のもつ社会的な意義や役割と人との関わりを踏まえて理解する能力とそれに関連する技術を身につける。
- イ) 電気技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の発展に対応し解決する能力を身につける。
- ウ) 電気技術に関する広い視野を持ち、作品製作、研究、実験、職業資格の取得について積極的に取り組む態度を身につける。

③ 目標到達のための方策

ア) 基礎学力の充実および基礎技能の定着

- ・身近な製品の作成例を取り上げ、電気技術への興味・関心を高めるとともに、器具や工具の正しい取り扱いを身につけさせる。
- ・学科独自の教材を共有し、電気科として一貫したきめ細かな指導を継続的かつ効果的に行う。
- ・必要に応じてICT機器を活用するとともに、設備機器を複合的に取り入れた学習を行う。

イ) 職業能力の育成

- ・企業見学や企業連携を活用し、基礎的知識の確立、実践的知識の習得を図る。
- ・学習状況を分析し、きめ細かい指導を継続的に行い、それぞれの生徒の習熟度に応じた個別指導を行う。
- ・国家資格取得に関する補講や講習を充実させ、個人指導を徹底することにより学習意欲を喚起し、自発的学習へと導くよう努める。

(2) 特別活動の方針

① ホームルーム

- ・ホームルーム活動を通じて、互いを理解し、違いを認め合える人間関係を形成する。
- ・学ぶことと働くことの意義を理解させることを目標にキャリア教育を進め、望ましい勤労観・職業観の確立をめざす。

② 生徒会活動

- ・生徒の自主性を尊重し、生徒自らが活動計画を立てることで、学校生活を充実させようとする態度を育成する。

③ 学校行事

- ・体育祭等の学校行事を通して、集団への帰属意識を高め、連帯感の育成を図る。
- ・校外学習等の学校行事など校外での学習を通して、集団活動のあり方や公衆道徳などについて学び、社会の形成者として必要な資質・能力を育む。

ホームルーム計画

学期	内 容		
	1 年	2 年	3 年
1 学期	・オリエンテーション ・前期 H R 委員選出 ・キャリアパスポート記入 ・いじめについて考える日 ・コネクションズおおさか Money Connection セミナー ・人権 H R ・体育祭の準備 ・防犯教室 ・交通安全講話 ・職業理解ガイダンス ・授業アンケート ・日常生活のアンケート ・いじめアンケート	・前期 H R 委員選出 ・キャリアパスポート記入 ・いじめについて考える日 ・体育祭の準備 ・選択科目説明 ・防犯教室 ・交通安全講話 ・職業理解ガイダンス ・進路模試 ・授業アンケート ・日常生活のアンケート ・いじめアンケート	・前期 H R 委員選出 ・キャリアパスポート記入 ・レディネステスト ・いじめについて考える日 ・人権学習 ・人権 H R ・体育祭の準備 ・進路講話 ・防犯教室 ・交通安全講話 ・職業理解ガイダンス ・授業アンケート ・日常生活のアンケート ・いじめアンケート
2 学期	・進路模試 ・キャリアパスポート記入 ・後期 H R 委員選出 ・球技大会メンバー選出 ・人権学習 ・人権講話 ・文化祭の準備 ・授業アンケート ・いじめアンケート ・学校教育自己診断アンケート	・進路模試 ・キャリアパスポート記入 ・後期 H R 委員選出 ・球技大会メンバー選出 ・人権学習 ・人権 H R ・業界研究セミナー、進学説明会 ・文化祭の準備 ・マナー講習 ・授業アンケート ・いじめアンケート ・学校教育自己診断アンケート	・後期 H R 委員選出 ・キャリアパスポート記入 ・球技大会メンバー選出 ・人権講話 ・卒業アルバムについて ・就職試験対策 ・文化祭の準備 ・授業アンケート ・いじめアンケート ・学校教育自己診断アンケート
3 学期	・進路模試 ・キャリアパスポート記入 ・いじめアンケート ・進級に向けて ・今年度の振り返り	・卒業式の準備と参加 ・キャリアパスポート記入 ・いじめアンケート ・進級に向けて ・今年度の振り返り	・コネクションズおおさか ライフコネクション セミナー ・卒業式の準備と参加 ・キャリアパスポート記入 ・いじめアンケート ・卒業に向けて ・高校生活の振り返り

(3) 道徳教育及び生徒指導の方針

【 道 徳 教 育 】

- ・あらゆる学校生活を通して、人間尊重の精神と生命に関する畏敬の念を身につけさせ、家庭、学校、その他社会において、それを活かし、他者を思いやることのできる心豊かな人材を育成する。
- ・民主的な社会の形成者として必要な公民としての能力の基礎を身につけさせ、国際社会で主体的に生きることのできる人格の育成に努める。
- ・学校生活に積極的に取り組み、学校行事やボランティア活動の充実、部活動の活性化に向けて前向きに取り組むなど、充実した高校生活を通して、人生における積極的な態度を育成する。

1. 道徳心・社会性の育成

人とのかかわり、集団や社会とのかかわりを通して、規範意識を醸成し、卒業後は社会人として活躍できる人材の育成に努める。また、未来を拓く主体性のある社会構成員としての自覚を促す。

2. 授業に集中できる環境づくり

私物の整理整頓、教室や学校の美化に努め、落ち着いて学習できる環境づくりを積極的に行い、授業に集中できる意識を育てる。

遅刻をしないことや身だしなみを整えるなど社会人として必要な規範意識をはぐくみ、授業への準備、気持ちの切り替えなど、集中力の高揚を図る。

【 生 徒 指 導 】

- ・生徒指導上、全教職員が生徒に対して一貫した取り組みを行えるように運営の改善を図る。
- ・日常の諸活動を通して規範意識を高め、集団生活の態度を養う。
- ・積極的な生徒指導を徹底し、未然防止に努める。また、いじめや問題生徒の早期発見に努める。

1. 規律ある生活態度の指導

①服装頭髪指導

制服を正しく着用し、身だしなみを整える等、社会生活に必要なマナーを意識させる。

②遅刻指導

毎日の遅刻指導に加え、遅刻防止週間を設定するなど時間に対して意識や自覚をもたせる。

2. 家庭及び関係諸機関との連携

①SNS上の誹謗中傷をはじめとする人権侵害事象や、薬物乱用等を含め高校生の陥りやすい問題行動や犯罪防止のため、ホームルームや朝礼などの機会を活用し注意喚起するとともに、保護者・地域の関係諸機関との連携を密にし、情報交換に努める。

②いじめ・暴力事案の未然防止のために、全教職員で生徒指導に当たり、情報を共有する。特に、いじめ問題に関しては人権教育委員会と密接に連携し、相手の立場に立って物事を考えることができる生徒の育成に重点的に取り組む。指導は複数の教員で対応することを徹底し、生徒の人権侵害となる体罰事案を決して起こさない。

- ③生徒の小さな変化を見逃さず、家庭との連携を密にする。
- ④成績懇談会や進路説明会など、必要に応じて保護者との懇談や家庭訪問を有効に利用して、生徒の実態及び指導に関する情報の共有を図る。

年間指導計画表

学期	指導事項		
1 学期	新入生オリエンテーション		HR担任と個人面談
	自転車点検	登下校指導	交通安全指導
	遅刻指導	服装頭髪点検	身だしなみ指導
	防犯教室（薬物乱用防止・SNSに関する犯罪行為）		
	夏休みの心得		
2 学期	自転車点検	登下校指導	交通安全指導
	遅刻指導	服装頭髪点検	身だしなみ指導
	冬休みの心得		
3 学期	自転車点検	登下校指導	交通安全指導
	遅刻指導	服装頭髪点検	身だしなみ指導
	春休みの心得		

(4) 進路指導の方針

1. 進路指導の方針

- ・著しい社会環境の変化に伴って必要とされる『生徒が主体的に自らの進路を選択・決定できる力』を育成する。
- ・生徒の進路目標達成と自己実現を第一に考え、最新の進路情報を収集して指導内容を更新し、適切な支援を行う。

2. 進路指導の取り組み

- ① 1 年次より基礎学力の定着を継続して図るため、自校カリキュラムの設定教科だけではなく、様々な分野の基礎学力育成を目的に SPI 問題集等を活用し、学力伸長の達成感を自覚させる。また、進路模試を年に 2 回実施し、基礎学力の定着度を確認する。
- ② 進学については、大学・専門学校で学べる専門分野を早くから意識させるため、学校情報や多様化する入試選抜制度等について最新の情報を提供する。また、外部講師を招く形態での校内進路ガイダンス実施などを充実させる。
- ③ 就職については、公共職業安定所や関係企業との連絡を密にして堅調な求人依頼を維持する。
また、自己実現と人生設計のための就職を考える判断材料として、就職指導で必要な各種情報の教室掲示、全員への資料配布等を行う。校内進路ガイダンスでは、生徒の希望に応じた職種の企業担当者を招いて説明を受ける形で実施し、生徒のモチベーション向上を図る。
- ④ 大阪府高等学校進路指導研究会等での他校との情報交換や、公的機関や教育産業が開催する研修会や講演会に積極的に参加して情報収集を行い、生徒・教員に適宜提供する。
- ⑤ 進路指導室に各工業科進路指導担当者が常に在席することで、担任との相談はもちろん、生徒や保護者の相談にも対応し、特に 3 年生の進路相談を迅速に、そして密に行えるようさらなる環境整備を行う。

(3) 進路指導行事年間計画

R 7 年度		1 年	2 年	3 年	
		自分を知る	情報収集	進路決定に向けた実践	
		社会を知る	進路準備	就 職	進 学
4	中旬 ～ 下旬	進学説明会アンケート調査	進学説明会アンケート調査	進路だより配布	
				進学説明会アンケート調査	
				進路希望調査	
				レディネス・テスト配布	
5	7 水			求人依頼発送	
	12 月		職業理解ガイダンス希望調査	進路のてびき配布	
	中旬			公務員試験申込開始	オープンキャンパス 学校説明会（各自で参加）
	27 火			第1回進路模試	
	30 金	進学説明会（希望者）	進学説明会（希望者）		進学説明会（希望者）
6	2 月			進路説明会（主に就職関係）	
	16 月			求人票検索説明会	
	中旬 ～			校長模擬面接	
				卒業生を囲む会	
7	1 火	第1回進路模試	第1回進路模試	求人票受付開始	
	中旬		職業理解ガイダンス	統一用紙配布 応募前職場見学	オープンキャンパス 学校説明会（各自で参加）
	下旬			第1回 進路相談【7/25,28,29】	
				面接①・自己PR講習会 【7/30,31】	
8	上旬			第2回 進路相談【8/1,4,5】	
	7 木			進路調整会議	
	下旬			面接②・履歴書講習会 【8/21,22】	
9	5 金			応募書類発送	
	16 火			第1次 就職試験開始	
10	1 水				専門学校入試開始
	上旬			公務員結果発表	
	下旬			公務員二次試験開始	
11	1 土				大学・短大推薦入試開始
	上旬				
	17 月	職業理解ガイダンス	進路講話（マナー講習）		
12	3 水	第2回進路模試	第2回進路模試		
	15 月		業界研究セミナー・進学説明会		
1	19 月	進路講話			
	下旬			卒業考査	
3	下旬	春期インターンシップ（予定）			

(5) 人権尊重の教育の方針

- ・ 広い視野に立ち、主体的に生きることのできる人格の形成を醸成し、人間尊重の自覚を高める。
- ・ あらゆる差別の実態から深く学び、課題を追究し、あらゆる差別を許さない精神を培い、そのために行動できる人格を育成する。
- ・ 民主社会の一員として、国際社会において主体的に生き、その責務を果たしうる人間形成を図る。

○1年…自分を大切にし、他者を思いやる心をはぐくみ、命を大切にする意識を育てる。

1 学期 いじめについて

2 学期 セクシャリティについて

人権 HR…いじめについて

いじめアンケート

○2年…在日韓国・朝鮮人をはじめとした外国人についての理解を深め、多文化共生の考え方を身につけさせる。

2 学期 多文化共生について

人権 HR デートDVについて

○3年…就職問題や性的マイノリティなど、社会的弱者についての理解を深める。

1 学期 同和問題について

セクシャリティについて

2 学期 人権 HR ブラック企業をはじめとする労働者に関する人権問題

*学期ごとに「いじめアンケート」年3回（全学年）Google formにて実施。

(6) 健康・安全管理と指導の方針

<本年度の重点目標>

- ① 全教職員の共通理解のもとに、健康管理や指導を徹底する。
- ② 疾病の早期発見・早期治療と健康診断の事後措置を徹底する。
- ③ 学校保健委員会を開催し、保護者、学校医、保健医療機関との十分な連携を図る。
- ④ 心身共に健康に学校生活が送れるよう健康相談活動の充実を図る。
- ⑤ スクールカウンセラーと連携し、教育相談活動（特別支援教育含む）の充実を図る。
- ⑥ 学校環境の実態を把握し、その整備・改善に務める。
- ⑦ 防災訓練やメール配信サービス・安否確認ツールを充実させ、安全教育、安全管理を徹底し、災害・事故防止に努める。
- ⑧ 感染症の蔓延防止対策に万全を期するとともに、生徒の心身の状態をチェックし、スクールカウンセラーとの連携を強化して対応する。
- ⑨ 災害発生を想定した緊急物資の備蓄の充実を図る。
- ⑩ 安全衛生委員会を開催し、産業医と十分な連携を図り、労働環境の改善に努める。
- ⑪ すべての生徒が安全・安心に学校生活を行えるよう、学校における食物アレルギー事故の防止に努める。

<令和7年度 学校保健及び学校安全年間計画>

月	保健目標	学校保健関連行事	保健管理	
			対人管理（心身・生活）	対物管理（環境）
4	健康診断を受け、健康の状態を把握しよう 学習環境を整備しよう	・定期健康診断 ・大掃除 ・防災訓練	・保健調査 ・健康観察の確認と実施 ・健康相談 ・健康診断の計画と実施と事後措置（身体計測、内科検診、視力検査、聴力検査、耳鼻科検診、眼科検診、心電図検査、結核検診等） ・疾病異常者の健康相談・生活指導	・清掃計画配布 ・日常点検の励行（1年間） ・机、いすの高さ、黒板面の色彩の検査 ・大掃除の実施状況の点検
5	疾病予防と早期発見に努めよう	・定期健康診断 ・三者面談 ・体育祭 ・大掃除	・健康観察の実施（強化） ・健康相談 ・健康診断の実施と事後措置（内科検診・歯科検診、尿検査等） ・疾病異常者の健康相談・生活指導 ・プール前健康相談	・大掃除の実施状況の点検 ・照度調査（春）
6	疾病治療の継続と梅雨対策をしよう	・定期健康診断 ・歯の衛生週間 ・防犯教室、交通安全 ・大掃除	・健康診断の実施と事後措置（内科検診・眼科検診・歯科検診） ・健康観察の実施 ・健康相談 ・食中毒・感染症予防 ・熱中症予防（水分補給）	・大掃除の実施状況の点検 ・水泳プールの水質及び施設・設備の衛生状態の調査
7 8	自主的な健康管理に努めよう	・部活動合宿のための健康相談 ・大掃除	・健康観察の実施 ・健康相談 ・夏休みの健康生活指導と健康管理	・大掃除の実施状況の点検 ・夏季空気調査 ・ダニアレルギー調査

9	生活習慣を確立しよう	・球技大会 ・大掃除	・健康観察の実施（強化） ・健康相談 ・疾病治療状況の把握 ・球技大会救護	・運動場の整備 ・飲料水等の水質及び施設・設備の検査
10	目の健康に留意しよう	・目の愛護デー ・普通救命講習会 ・文化祭のための腸内細菌検査、衛生講話 ・大掃除 ・2年修学旅行	・健康観察の実施 ・健康相談 ・疾病治療状況の把握 ・修学旅行前健康相談	・受水槽高架水槽性総点検 ・大掃除の実施状況の点検 ・保健室医薬品調査
11	健康を意識した生活をしよう	・文化祭 ・大掃除	・健康観察の実施 ・健康相談 ・かぜやインフルエンザの予防	・大掃除の実施状況の点検 ・照度調査（秋）
12	冬の健康管理をしっかりしよう	・世界エイズデー ・学校保健委員会 ・大掃除	・健康観察の実施 ・健康相談 ・かぜ・インフルエンザの罹患状況把握 ・室内の換気及び手洗い・うがいの励行 ・冬休みの健康生活指導と健康管理	・大掃除の実施状況の点検 ・理科室薬品管理状況調査
1	寒さに向けての体力増強をはかろう	・大掃除	・健康観察の実施（強化） ・健康相談 ・冬休みの健康調査 ・かぜ・インフルエンザの罹患状況把握 ・室内の換気及び手洗い・うがいの励行	・日常点検の励行 ・大掃除の実施状況の点検
2	心身の健康生活を实践しよう	・大掃除	・健康観察の実施 ・健康相談 ・かぜ・インフルエンザの罹患状況把握 ・室内の換気及び手洗い・うがいの励行	・換気、温度、相対湿度、浮遊粉じん、気流、一酸化炭素及び二酸化窒素の検査 ・大掃除の実施状況の点検
3	1年間の生活を振り返って反省しよう	・大掃除	・健康観察の実施 ・一年間の健康生活の反省 ・春休みの健康管理・生活指導 ・新年度の計画	・保健室の整備 ・学校環境衛生検査結果等のまとめと次年度への課題整理 ・大掃除の実施状況の点検

月	保健教育				組織活動
	教科等	特別活動			
		ホームルーム活動	生徒会活動等	個別・日常指導	
4	〈保健・1年〉 「私たちの健康のすがた」 〈保健・2年〉 「大気汚染と健康」 〈生物基礎3年〉 「目、耳のつくりとはたらき」 「神経系のはたらきとしくみ」	・健康診断の事前指導 ・保健調査 （全学年）	・組織づくりと年間計画作成 ・係分担 ・健康診断補助	・健康診断の受け方 ・保健室の利用の仕方	・組織づくり（職員保健部、PTA保健部、学校保健委員会等） ・職員保健部会 ・保健だより等の発行（不定期） ・労働安全衛生委員会
5	〈保健・1年〉 「健康のとらえ方」 〈保健・2年〉 「水質汚濁・土壌汚染と健康」 〈生物基礎3年〉 「血液凝固」 〈保育・3年選択〉 「母体の健康」	・人権講話 （全学年）	・健康診断補助	・望ましい生活リズム ・心身の健康	・職員保健部会 ・三者面談 ・体育祭救護 ・労働安全衛生委員会
6	〈保健・1年〉 「健康と意志決定・行動選択」 「健康に関する環境づくり」	・人権学習 （全学年）	・熱中症予防について	・歯肉炎の予防 ・手洗いうがいの励行	・職員保健部会 ・治療促進の啓発 ・労働安全衛生委員会

	「生活習慣病とその予防」 〈保健・２年〉 「思春期と健康」 「性意識と性行動の選択」 「結婚と健康」			・食中毒の予防 ・光化学スモッグ	
7 8	〈保健・１年〉 「食事と健康」「運動と健康」 「休養・運動と健康」 〈保健・２年〉 「妊娠・出産と健康」 「家族計画と人工妊娠中絶」 「加齢と健康」 「高齢者のための社会的取り組み」 〈生物基礎３年〉 「脳のつくりとはたらき」「免疫」 〈家庭基礎３年〉 「食中毒」		・１学期の反省 ・保健だよりの発行	・夏期における心身の健康 ・男女交際を考える	・職員保健部会 ・治療促進の啓発 ・保健統計のまとめ ・労働安全衛生委員会
9	〈保健・１年〉 「喫煙と健康」「飲酒と健康」 「薬物乱用と健康」 〈保健・２年〉 「保健制度とその活用」 「医療制度とその活用」 「医薬品と健康」 「さまざまな保健活動や対策」 〈生物基礎３年〉 「脳のつくりとはたらき」「免疫」 〈家庭基礎３年〉 「食中毒」		・２学期の活動計画 ・目の愛護デーの計画	・傷害の防止 ・応急手当の方法と実践	・職員保健部会 ・夏休みの健康状況把握 ・球技大会救護 ・労働安全衛生委員会
10	〈保健・１年〉 「現代の感染症」「感染症の予防」 「性感染症・エイズとその予防」 〈保健・２年〉 「健康被害の防止と環境対策」 「環境衛生活動のしくみと働き」 〈現社２年〉 「公害防止と環境保全」 〈家庭基礎３年〉 「食品の取り扱い方」		・文化祭衛生管理	・正しいコンタクトレンズの使い方	・職員保健部会 ・文化祭衛生指導 ・労働安全衛生委員会
11	〈保健・１,２年〉 「欲求と適応規制」 「心身の相関とストレス」 「ストレスへの対処」 〈保健・２年〉 「食品衛生活動のしくみと働き」 「食品と環境の保健と私たち」 「働くことと健康」 〈家庭基礎３年〉「生命の誕生」		・インフルエンザ予防	・インフルエンザの予防 ・手洗い・うがい	・職員保健部会 ・労働安全衛生委員会
12	〈保健・１年〉 「心の健康と自己実現」 「交通事故の現状と要因」 「交通社会における運転者の資質と責任」 〈保健・２年〉 「労働災害と健康」 「健康的な職業生活」		・世界エイズデーについて ・保健だよりの発行 ・２学期の反省	・インフルエンザの予防 ・冬休みの生活	・職員保健部会 ・ＰＴＡ保健部会 ・学校保健委員会の開催 ・労働安全衛生委員会

	〈生物基礎３年〉 「地球環境とその保全①」				
1	〈保健・１年〉 「安全な交通社会づくり」 「応急手当の意義とその基本」 「心身相関とストレス」 〈生物基礎３年〉 「地球環境とその保全②」		・インフルエンザ 予防	・インフルエン ザの予防	・職員保健部会 ・冬休みの健康状況把握 ・労働安全衛生委員会
2	〈保健・１年〉「心肺蘇生法」「日 常的な応急手当」		・ウイルス性胃腸 炎について	・冬の体力と 栄養	・職員保健部会 ・労働安全衛生委員会
3			・保健だよりの 発行 ・健康１年間の 反省	・１年間の健康 生活の反省	・職員保健部会 ・１年間のまとめと反省 ・労働安全衛生委員会

（７）学校運営の方針

- ・健やかな心と身体の育成に努める。
- ・誠実勤勉を重んじ、基本的な生活習慣を身につけさせる。
- ・豊かな人間性と生きる力を育み、社会性を伸長する。
- ・基礎学力の向上、基本的な技術の習得と進路の実現を図る。
- ・自分で課題を見つけ、自ら学び自ら考える力を養う。

（８）教員の研修方針・研修計画

- ・教育センターの研修や各種研究会等への積極的な参加を促進し、教職員の専門性の向上を図る。また、研修成果を積極的に校内での実践に活かすとともに、校内研修を行うなど学校全体の教育力向上に努める。
- ・生徒の実態を踏まえ、具体的な日程を設定し、学習指導、生徒指導、人権教育に関わる校内研修の充実を図る。
- ・生徒に危害が生じた場合に適切に対処できるよう、AED の使用方法を含めた救急救命講習会を実施し、生徒の安全確保に努める。
- ・ICT 機器を活用した授業実践、観点別学習状況の評価の実施に向けた学校全体としての取組として、教科を越えた授業の相互見学、公開授業を実施する。

第2 校務分掌

校長・教頭・事務長

●教務課	11名
●生活指導課	11名
●進路指導課	7名
●健康教育課	5名
●普通科	5名
●ファッション工学科	2名
●セラミック科	3名
●工業化学科	1名
●機械科	1名
●電気科	2名
●庶務課	4名

(各種委員会)

委 員 会	長	構 成 員	会議頻度
校務運営委員会	教 頭	校長 事務長 教頭 首席 教務課長 保健主事 生活指導課長 進路指導課長 生徒会主担 工業科5科長 1～3学年主任	週1回
生活指導委員会	生活指導課長	教頭 生活指導課長 生活指導課員 各工業科表 各学年代表	月1回
進路指導委員会	進路指導課長	教頭 進路指導課長 進路指導課員 3学年担任 団 工業科5科長 各学年主任	月1回
情報処理委員会	情報処理委員長	教頭 情報処理委員長 工業科5科情報担当者 普通科情報担当者 教務課情報担当	随時
人権教育委員会	人権教育委員長	教頭 人権教育委員長 人権教育副委員長 普通科人権担当者 工業科5科人権担当者 各学年人権担当者	月1回
財政委員会	事 務 長	教頭 事務長 主査 各教科代表者 工業科5科	随時
教育課程委員会	教務課長	教頭 教務課長 各教科代表者 工業科5科長	随時
安全衛生委員会	教 頭	校長 教頭 事務長 保健主事 養護教諭 職員代表 産業医	月1回
いじめ対策委員会	校 長	校長 教頭 首席 生活指導課長 工業科5科長 1～3学年主任 養護教諭 人権教育委員長	随時
学校保健委員会	校 長	校長 教頭 事務長 学校三師 保健主事 養護教諭 PTA役員 健康教育課員 生徒保健委員代表者 必要に応じて地域の関係者	年1回
食物アレルギー対応 委員会	校 長	校長 教頭 学校医 保健主事 養護教諭 家庭科 必要に応じて当該生徒の担任・学年主任・科長	随時
特別支援チーム	特別支援主担	特別支援主担 1年担当2名 2年担当 3年担当	週1回

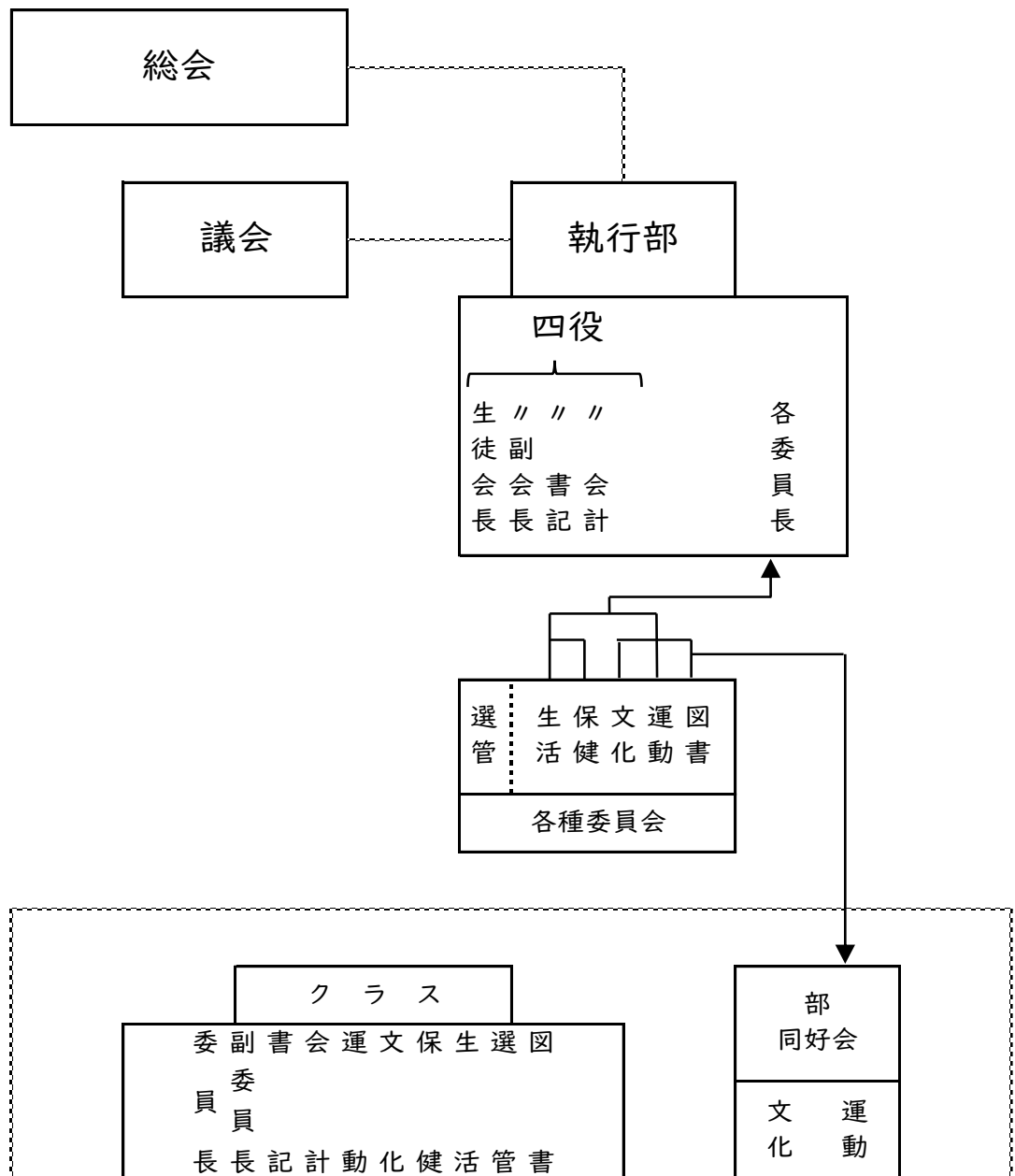
(2) 学年主任・ホームルーム担任一覧表

令和7年4月1日 時点

学 年	学 科	生徒数		計
		男	女	
1	ファッション工学	4	14	18
	セラミック	17	6	23
	工業化学	2	0	2
	機 械	31	2	33
	電 気	29	0	29
	計	83	22	105
2	ファッション工学	3	26	29
	セラミック	7	7	14
	工業化学	3	1	4
	機 械	11	0	11
	電 気	21	1	22
	計	45	35	80
3	ファッション工学	5	22	27
	セラミック	14	4	18
	工業化学	2	1	3
	機 械	5	0	5
	電 気	23	0	23
	計	49	27	76
総 計		177	84	261

(3) 生徒会活動・クラブ部員数・部活動顧問一覧表

(1) 生徒会活動



(2) クラブ部員数・部活動担当者（顧問）一覧表

	名称	顧問数	主な活動場所	1年	2年	3年	合計	内訳	
								男子	女子
体育系部活動	剣 道	6	剣道場	1	4	0	5	5	0
	硬式野球	2	グラウンド	2	1	2	5	5	0
	サッカー	3	グラウンド	0	0	0	0	0	0
	自 転 車	4	西館	0	3	3	6	6	0
	柔 道	1	柔道場	0	0	0	0	0	0
	男子バレー	2	体育館	0	0	0	0	0	0
	軟式野球	5	グラウンド	0	0	0	0	0	0
	バドミントン	5	体育館	0	0	5	5	3	2
	陸上競技	6	グラウンド	0	2	0	2	0	2
	ダンス	3	北館	0	1	2	3	0	3
	水 泳	2	プール	0	0	0	0	0	0
	卓 球	4	剣道場	0	0	0	0	0	0
	男子バスケットボール	4	体育館	0	5	3	8	8	0
	軟式テニス	2	テニス場	0	0	0	0	0	0
	女子バスケットボール	4	体育館	0	0	0	0	0	0
計				3	16	15	34	27	5

	名称	顧問数	主な活動場所	1年	2年	3年	合計	内訳	
								男子	女子
文科系部活動	軽 音 楽	4	部室棟	8	6	6	20	9	11
	テキスタイル	3	北館	0	1	2	3	0	3
	自 動 車	2	機械科工場	0	0	0	0	0	0
	写 真	7	北館	0	1	0	1	0	1
	鉄道研究	2	本館	1	2	0	3	3	0
	陶 芸	2	工芸実習室	0	1	2	3	1	2
	美 術	3	美術室	0	0	1	1	0	1
	吹 奏 楽	4	南館	0	0	1	1	1	0
	クッキング	4	調理実習室	0	2	6	8	0	8
	マルチメディア	4	北館	0	7	7	14	0	14
	漫画研究	4	本館	0	0	0	0	0	0
計				9	20	25	54	14	40

	名称	顧問数	主な活動場所	1年	2年	3年	合計	内訳	
								男子	女子
同好会等	演 劇	2	南館	0	0	0	0	0	0
	映像研究	2	南館	0	0	0	0	0	0
	放送・無線	4	西館	0	0	0	0	0	0
	メカトロ工作研究	3	西館	0	0	0	0	0	0
	硬式テニス	3	テニス場	0	0	0	0	0	0
	ボウリング	2	南館	0	0	0	0	0	0
	ラグビー	1	グラウンド	0	0	0	0	0	0
	空 手 道	1	柔道場	0	0	0	0	0	0
	野外活動	1	校外	0	1	0	1	1	0
	アームレスリング	1	南館	0	0	0	0	0	0
計				0	1	0	1	1	0